

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	鹿児島県立農業大学校
設置者名	鹿児島県

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
養成部門農学部	野菜科	夜・通信	97 単位	6 単位	
	花き科	夜・通信	97 単位	6 単位	
	茶業科	夜・通信	96 単位	6 単位	
	果樹科	夜・通信	95 単位	6 単位	
養成部門畜産学部	肉用牛科	夜・通信	86 単位	6 単位	
	酪農科	夜・通信	86 単位	6 単位	
	養豚科	夜・通信	86 単位	6 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

鹿児島県ホームページの農業大学校に掲載 http://www.pref.kagoshima.jp/ag25/nodai_hp.html
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	鹿児島県立農業大学校
設置者名	鹿児島県

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	鹿児島県立農業大学校学校関係者評価委員会
役割	<p>学校運営の改善を図るため、学校教育法及び学校教育法施行規則に基づく学校評価を実施する。</p> <p>なお、学校評価委員会は、学校評価の実施に必要な事項をとりまとめた鹿児島県立農業大学校評価実施要領に基づき設置したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価の結果に対して、教育活動その他の学校運営に関する検討を行う学校関係者評価を実施する。 学校関係者評価を実施するため、農大と直接関係のある外部者を委員とする学校関係者委員会を設置する。 委員は、学生保護者、農大卒業生、農業系高校教諭、農業者、学識経験者など農大関係者等により構成し、毎年度校長が依頼する。 自己評価及び学校関係者評価を元に、当該年度の取組成果と残された課題を分析し、次年度の重点目標や評価項目に反映させるとともに、学校運営の更なる改善に生かす。 自己評価及び学校関係者評価の結果の公表は、農大のホームページへの掲載など適切な方法で行う。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
農業大学校後援会長	令和6年4月 ～令和7年3月	保護者代表
農業大学校同窓会長	令和6年4月 ～令和7年3月	卒業生代表
鹿児島県高等学校教育研究会 農学部長	令和6年4月 ～令和7年3月	農業系高等学校代表
鹿児島県指導農業士会長	令和6年4月 ～令和7年3月	農業者代表
鹿児島県女性農業者代表 （県農村女性リーダーネットワーク 会長）	令和6年4月 ～令和7年3月	農業者代表
J A鹿児島県中央会	令和6年4月 ～令和7年3月	学識経験者
鹿児島県農政部経営技術課	令和6年4月 ～令和7年3月	学識経験者
（備考）		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鹿児島県立農業大学校
設置者名	鹿児島県

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。																	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)																	
<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの作成 令和6年度の授業内容等について、令和5年12月から各科・学部において検討 令和6年1月に講師等の選定を行い、2月までに素案を作成 令和6年3月末にシラバス作成完了 授業科目、講師名、履修科目、履修時間数、単位数、授業体系、 テーマ及び到達目標、使用機材(テキスト教材、参考文献)、授業スケジュール 成績評価 について記載 ・ 公表について 令和6年6月10日に公表 養成部門(共通科目) 養成部門農学部(野菜科、花き科、茶業科、果樹科) 養成部門畜産学部(肉用牛科、酪農科、養豚科) 																	
授業計画書の公表方法	鹿児島県ホームページの農業大学校に掲載																
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。																	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)																	
<p>授業科目の学習成果の評価については、鹿児島県立農業大学校教務規定第4条の規定に基づき、適正に実施している。</p> <p>同規定第4条第10項(養成部門のみ抜粋)</p> <p>10 評定は、試験、学習態度、出席状況をもって行う。</p> <p>(1) 試験等の評価は試験成績の60点以上を合格、60点未満を不合格とし、 標語を表す場合は次のとおりとする。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>80点以上</td> <td>～</td> <td>100点</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>70点以上</td> <td>～</td> <td>80点未満</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>60点以上</td> <td>～</td> <td>70点未満</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>60点未満</td> <td></td> <td></td> <td>不可</td> </tr> </table> <p>(2) 再試験の合格者は60点以上とし、不合格者は第1回の試験成績とする。</p> <p>(3) 授業科目の所定の単位は、当該授業科目の試験等に合格したとき認定する。</p>		80点以上	～	100点	優	70点以上	～	80点未満	良	60点以上	～	70点未満	可	60点未満			不可
80点以上	～	100点	優														
70点以上	～	80点未満	良														
60点以上	～	70点未満	可														
60点未満			不可														

(4) 専攻学習，農家留学研修，卒業論文は次の評価基準により評価する。

ア 専攻学習

学年	出席	態度	技能	記録	合計
1	30	20	20	30	100
2	20	20	20	40	100

イ 農家留学研修期間は大学が定める日数とし，日数を完了した者について，期間中の研修日誌，研修報告書，研修評価書により3段階で評定する。
日数が服している者は不足日数の補充を行うが，実施方法については，学部長は校長と協議する。

優 (非常に優秀)

良 (優秀)

可 (普通)

ウ 卒業論文

研究課題にそった内容であり，卒業論文としてふさわしいものであるか，下記の審査項目と配点基準により審査し，評定する。

(ア) 研究テーマの設定は適切か 10点

(イ) 研究テーマにそった研究内容になっているのか 20点

(ウ) 研究内容は良く整理されているのか 30点

(エ) 自主的な研究内容になっているのか 40点

合計：100点

(5) 学年修了・卒業の認定

ア 各学年において，学年修了及び卒業認定に必要な条件は以下のとおり。

(ア) 学年の出席すべき日数の5分の4以上出席すること

(イ) 各学年において，履修しなければならない単位下限以上の単位を取得すること。

養成部門：1学年48単位以上，2学年44単位以上

(ウ) 指定する科目及び以下の科目すべての単位を取得していること

養成部門：専攻学習，農家留学研修，卒業論文

(エ) 授業料，学生経費等の納入金を完納していること。

イ 1年生の学年修了認定は，学部判定会において審議し，学部長はその結果を校長に報告する。その結果については，本人及び保護者に連絡する。

ウ 学級担任は判定会資料として所定の成績一覧表，評定一覧表，欠席・欠課一覧表を作成し，提出するものとする。

(ア) 試験を実施しない科目の評定にあたっては，指導に当たった指導職員で合議し，適正な評定を行う。なお，農家留学研修，体育の成績一覧表記人は評定のみとする。

(イ) その他の記載事項（出欠の記録簿）は，学籍簿への記載を参照する。

(ウ) 成績の集計方法

農家留学研修，体育を除く各科目の評定の合計を出し，平均点を算出して，順位をつける。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

客観的な指標の設定について

- ・ 各科目の評点の合計（農家留学研修，体育を除く）を出し，平均点を算出して客観的な指標としている。

成績評価の適切な実施に係る取組の概要

- ・ 上記により算出した平均点で，学科ごとの順位をつけており，この平均点をもとに各学科の成績の状況把握を適切に行っている。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- 卒業の認定方針については、「鹿児島県立農業大学校運営方針」で、農業経営に必要な最新の知識・技術を習得し、技術革新や経営の多角化への対応能力や農村地域のリーダーとしての資質を醸成するとともに全寮制による共同生活や学生自治会活動をとおして、自主的で責任感を重んじ、協調性に富んだ温かい人間性を養ったものとしている。
- 卒業の認定については、「鹿児島県立農業大学校教務規定第4条10(5)の規定」を設け、これを適正に実施している。

(5) 学年修了・卒業の認定

ア 各学年において学年修了及び卒業認定に必要な条件は以下のとおり

(ア) 学年の出席すべき日数の5分の4以上出席すること。

(イ) 各学年において、履修しなければならない単位下限以上の単位を取得すること

養成部門：1学年48単位以上，2学年44単位以上

(ウ) 指定する科目及び以下の科目すべてに単位を修得していること

養成部門：専攻学習，農家留学研修，卒業論文

(エ) 授業料，学生経費等の納入金を完納していること

イ 1年生の学年修了認定は，学部判定会において審議し，学部長はその結果を校長に報告する。その結果については，本人及び保護者に連絡する。

ウ 1学年修了の認定を受けた2年生の卒業は，学部判定会における審議結果をもって，校長は学部長等による卒業判定会を開催し認定する。

エ 学級担任は判定会資料として所定の成績一覧表，評定一覧表，欠席・欠課一覧表を作成し，提出するものとする。

(ア) 試験を実施しない科目の評定にあたっては，指導に当たった指導職員で合議し，適正な評定を行う。なお，農家留学研修，体育の成績一覧表記入は評定のみとする。

<p>(イ) その他の記載事項（出欠の記録簿）は、学籍簿への記載を参照する。</p> <p>(ウ) 成績の集計方法 農家留学研修，体育を除く各科目の評点の合計を出し，平均点を算出して順位をつける。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学生便覧（毎年度作成）により，公表 学校への問い合わせにより入手可能

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	鹿児島県立農業大学校
設置者名	鹿児島県

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	—
収支計算書又は損益計算書	—
財産目録	—
事業報告書	—
監事による監査報告（書）	—

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部門 農学部	野菜科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	9 2 単位	4 3 単位	1 6 単位	4 1 単位	0 単位	2 単位
		1 0 2 単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
7 0 人		4 7 人	1 人	6 人	0 人	6 人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部門 農学部	花き科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	9 2 単位	4 3 単位	1 8 単位	3 9 単位	0 単位	2 単位
		1 0 2 単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
2 0 人		7 人	0 人	2 人	0 人	2 人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部門 農学部	茶業科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	92単位	45単位	13単位	42単位	0単位	2単位
			102単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		4人	0人	2人	0人	2人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部門 農学部	果樹科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	92単位	43単位	18単位	39単位	0単位	2単位
			102単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		12人	0人	2人	0人	2人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
畜産関係		養成部門 畜産学部	肉用牛学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	92単位	43単位	13単位	44単位	0単位	2単位
			102単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		48人	0人	4人	0人	4人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部門 畜産学部	酪農科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	92単位	43単位	16単位	41単位	0単位	2単位
			102単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		14人	0人	2人	0人	2人	

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業関係	養成部門 畜産学部	養豚科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	92単位	44単位	13単位	43単位	0単位	2単位
		102単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	11人	0人	2人	0人	2人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

- ・ 授業方法及び内容についてはシラバスに記載

シラバスの内容

授業科目、講師名、履修学課、履修学年、履修時間数、単位数、授業形態、
テーマ及び到達目標、使用教材（テキスト教材、参考文献）、授業スケジュール、
成績評価

- ・ 年間の授業計画

別添のとおり

成績評価の基準・方法

（概要）

1 成績及び試験の取り扱い

（1）成績処理（試験等の評価は100点を満点とする。）

ア 試験等の評価（得点）に基づき4段階の評定とする。

評価（得点）	評定	科目の履修・単位の認定可否
80以上～100	優	履修・単位を認定
70以上～80未満	良	
60以上～70未満	可	
60未満	不可	履修・単位を不認定

イ 専攻学習、農家留学研修、卒業論文の評価・認定基準

（ア）専攻学習の項目別評価（点数）配分

項目	出席	態度	技能	記録	評定及び認定
1学年	30	20	20	30	アを適用
2学年	20	20	20	40	

（イ）農家留学研修

a 項目毎の評価（点数）配分及び評定・認定基準

項目	研修日誌	研修報告	研修評価点	評定及び認定
配点	15	15	※70	アを適用

※ 上記研修評価書欄は、総合評価を基に以下のとおり点数化（単位：点）

総合評価	優秀	普通	努力を要する
換算配点	70	56	42

b aの評価を基に次の3段階の評定とする

優（非常に優秀）、良（優秀）、可（普通）

(ウ) 卒業論文の項目別評価 (点数) 配分

項 目	配点	評定
研究テーマの選定は適切か	10	アを適用
研究テーマに沿った研究内容になっているか	20	
研究内容は良く整理されているか	30	
自主的な研究内容になっているか	40	

卒業・進級の認定基準

(概要)

卒業・進級の認定については、鹿児島県立農業大学校教務規定第4条10(5)の規定を設け、これを適正に実施している。

(5) 学年修了・卒業の認定

ア 各学年において、学年修了及び卒業認定に必要な条件は以下のとおり。

(ア) 学年の出席すべき日数の5分の4以上出席すること。

(イ) 各学年において、履修しなければならない単位下限以上の単位を取得すること。

養成部門：1学年48単位以上、2学年44単位以上

(ウ) 指定する科目及び以下の科目すべてに単位を取得していること。

養成部門：専攻学習，農家留学研修，卒業論文

(エ) 授業料，学生経費等の納入金を完納していること。

イ 1年生の学年修了認定は、学部判定会において審議し、学部長はその結果を校長に報告する。その結果については、本人及び保護者に連絡する。

ウ 1学年修了の認定を受けた2年生の卒業は、学部判定会における審議結果をもって、校長は学部長等による卒業判定会を開催し認定する。

エ 学究担任は判定会資料として所定の成績一覧表，評定一覧表，欠席・欠課一覧表を作成し提出するものとする。

(ア) 試験を実施しない科目の評定に当たっては、指導に当たった指導職員で合議し、適正な評定を行う。なお農家留学研修，体育の成績一覧表記入は評定のみとする。

(イ) その他の記載事項（出欠の記録簿）は、（学籍簿への記載）を参照する。

(ウ) 成績の集計の方法

農家留学研修，体育を除く各科目の評定の合計を出し、平均点を算出して順位をつける。

(6) 学年修了，卒業が認定されなかった者の措置

ア 1年生は2年生に進級させることができる。ただし、校長が特に認めた場合この限りではない。

イ 未修科目については、原則として3年目以降において、卒業に必要な単位を修得させる。

ウ 3年目以降において、科目を履修する者は2年生として取り扱う。

エ 卒業の認定は卒業判定会で審議し、校長が決定する。

オ 卒業年度の取り扱いは、卒業に必要な単位の修得が完了した年度とする。

カ 学生を修業年数の2倍を超えて在学させることはできない。

(7) 休学者の復学後の取り扱い

ア 原則として、在籍している学年を再履修する。ただし校長が特に認めた場合はこの限りではない。

イ 適切な実施に係る取組

1学年修了の認定を受けた2年生の卒業は、学部判定会における審議結果を持って校長は学部長等による卒業判定会を開催し、認定している。

学級担任は判定会資料として所定の成績一覧表，評定一覧表，欠席・欠課一覧

表を作成し提出する。
学修支援等
(概要) 学生指導員による学生の修学上・生活上の諸問題への助言 学科ごとの2年間持ち上がりの担任制による履修，就農，就職等に係る計画的な面談等

卒業生数，進学者数，就職者数（直近の年度の状況を記載）			
野菜科			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	1人 (7.1%)	12人 (85.8%)	1人 (7.1%)
(主な就職，業界等) 農業生産法人，農業関連企業，農業団体，就農，公務員			
(就職指導内容) 就農・修業相談会の開催，一般常識に係るトレーニング（通信教育）等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 農業機械士，大型特殊自動車及びけん引免許（農耕者限定），小型車両建設機械特別教育修了証，フォークリフト運転技能講習修了証，小型移動式クレーン運転技能講習，玉掛技能講習修了証，アーク溶接特別教育修了証，チェーンソー特別教育修了証，刈払機安全衛生教育修了証，毒物劇物取扱者資格，危険物取扱者資格，日本農業技術検定（2級，3級），農業簿記検定（2級，3級），食品衛生責任者，ボイラー取扱技能講習修了証，土壤医検定，J-GAP指導員基礎研修			
(備考)（任意記載事項）			

卒業生数，進学者数，就職者数（直近の年度の状況を記載）			
花き科			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	人 (%)	1人 (100.0%)	人 (%)
(主な就職，業界等) 農業関連企業			
(就職指導内容) 就農・修業相談会の開催，一般常識に係るトレーニング（通信教育）等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 農業機械士，大型特殊自動車及びけん引免許（農耕者限定），小型車両建設機械特別教育修了証，フォークリフト運転技能講習修了証，アーク溶接特別教育修了証，チェーンソー特別教育修了証，刈払機安全衛生教育修了証，危険物取扱者資格，日本農業技術検定（3級），ボイラー取扱技能講習修了証，園芸装飾技能士，フラワー装飾技能士			
(備考)（任意記載事項）			

卒業生数，進学者数，就職者数（直近の年度の状況を記載）			
茶業科			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4人 (100%)	1人 (25.0%)	3人 (75.0%)	人 (%)
(主な就職，業界等) 農業生産法人，農業関連企業，就農			
(就職指導内容) 就農・修業相談会の開催，一般常識に係るトレーニング（通信教育）等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 農業機械士，大型特殊自動車及びけん引免許（農耕者限定），大型特殊自動車限定解除免許，小型車両建設機械特別教育修了証，フォークリフト運転技能講習修了証，小型移動式クレーン運転技能講習，玉掛技能講習修了証，アーク溶接特別教育修了証，刈払機安全衛生教育修了証，毒物劇物取扱者資格，危険物取扱者資格，日本農業技術検定（3級），農業簿記検定（3級），食品衛生責任者，ボイラー取扱技能講習修了証，日本茶アドバイザー資格，日本茶インストラクター資格			
(備考)（任意記載事項）			

卒業生数，進学者数，就職者数（直近の年度の状況を記載）			
果樹科			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4人 (100%)	2人 (50.0%)	1人 (25.0%)	1人 (25.0%)
(主な就職，業界等) 就農			
(就職指導内容) 就農・修業相談会の開催，一般常識に係るトレーニング（通信教育）等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 農業機械士，大型特殊自動車及びけん引免許（農耕者限定），小型車両建設機械特別教育修了証，フォークリフト運転技能講習修了証，アーク溶接特別教育修了証，刈払機安全衛生教育修了証，毒物劇物取扱者資格，危険物取扱者資格，日本農業技術検定（3級），農業簿記検定（3級），食品衛生責任者，ボイラー取扱技能講習修了証			
(備考)（任意記載事項）			

卒業生数，進学者数，就職者数（直近の年度の状況を記載）			
肉用牛科			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23人 (100%)	5人 (21.7%)	18人 (78.3%)	人 (%)
(主な就職，業界等) 農業生産法人，農業関連企業，農業団体			
(就職指導内容) 就農・修業相談会の開催，一般常識に係るトレーニング（通信教育）等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 農業機械士，大型特殊自動車及びけん引免許（農耕者限定），小型車両建設機械特別教育修了証，フォークリフト運転技能講習修了証，小型移動式クレーン運転技能講習，玉掛技能講習修了証，アーク溶接特別教育修了証，刈払機安全衛生教育修了証，毒物劇物取扱者資格，危険物取扱者資格，日本農業技術検定（2級，3級），家畜商講習会証明書，家畜人工授精士就業試験合格証明書（牛），2級認定牛削蹄試験合格			
(備考)（任意記載事項）			

卒業生数，進学者数，就職者数（直近の年度の状況を記載）			
酪農科			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10人 (100%)	1人 (10.0%)	9人 (90.0%)	人 (%)
(主な就職，業界等) 農業生産法人，農業団体，就農，公務員			
(就職指導内容) 就農・修業相談会の開催，一般常識に係るトレーニング（通信教育）等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 農業機械士，大型特殊自動車及びけん引免許（農耕者限定），小型車両建設機械特別教育修了証，フォークリフト運転技能講習修了証，小型移動式クレーン運転技能講習，玉掛技能講習修了証，アーク溶接特別教育修了証，チェーンソー特別教育修了証，刈払機安全衛生教育修了証，毒物劇物取扱者資格，危険物取扱者資格，日本農業技術検定（2級），農業簿記検定（2級），食品衛生責任者			
(備考)（任意記載事項）			

卒業生数，進学者数，就職者数（直近の年度の状況を記載）			
養豚科			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	人 (%)	3人 (100.0%)	人 (%)
(主な就職，業界等) 農業生産法人，農業関連企業			
(就職指導内容) 就農・修業相談会の開催，一般常識に係るトレーニング（通信教育）等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 農業機械士，大型特殊自動車及びけん引免許（農耕者限定），小型車両建設機械特別教育修了証，フォークリフト運転技能講習修了証，小型移動式クレーン運転技能講習，玉掛技能講習修了証，アーク溶接特別教育修了証，チェーンソー特別教育修了証，刈払機安全衛生教育修了証，危険物取扱者資格，日本農業技術検定（2級，3級），農業簿記検定（3級），食品衛生責任者			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
138人	7人	5.1%
(中途退学の主な理由) 進路の再検討		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個別面談や学生へのカウンセリングの実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
全学科	5,650円	118,800円	500,000円	学習費（教材，被服，研修等）共通費（自治会，後援会等），寮経費（水道，電気等），海外研修費
修学支援（任意記載事項）				
鹿児島県立農業大学校の設置及び管理に関する条例施行規則により入学金等の減免措置あり				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.pref.kagoshima.jp/ag25/nodai_hp.html		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価の結果に関して、教育活動その他の学校運営に関する検討を行う学校関係者評価を実施する ・ 学校教育関係者評価を実施するため、農大と直接関係のある外部者を委員とする学校関係者委員会を設置する。 ・ 委員は、学生保護者、農大卒業生、農業系高校教諭、農業者、学識経験者など、農大関係者等により構成し、毎年度校長が依頼する。 ・ 自己評価及び学校関係者評価項目に反映させるとともに、学校運営の更なる改善に生かす。 ・ 自己評価及び学校関係者評価の結果の公表は、農大のホームページへの掲載など適切な方法で行う。 		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
農業大学校後援会	R 6 年 4 月～R 7 年 3 月	保護者代表
農業大学校同窓会	R 6 年 4 月～R 7 年 3 月	卒業生代表
鹿児島県農業高等学校教育研究会 農業部会(鹿屋農業高等学校長)	R 6 年 4 月～R 7 年 3 月	農業系高等学校
鹿児島県指導農業司会	R 6 年 4 月～R 7 年 3 月	農業者代表
鹿児島県農村女性リーダーネットワーク	R 6 年 4 月～R 7 年 3 月	農業者代表
鹿児島県 J A 中央会	R 6 年 4 月～R 7 年 3 月	学識経験者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.pref.kagoshima.jp/ag25/nodai_hp.html		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.pref.kagoshima.jp/ag25/nodai_hp.html
--